

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

。、	1170600520		
法人名	株式会社ウイズネット		
事業所名	グループホームみんなの家・春日部花積		
所在地	埼玉県春日部市花積108-5		
自己評価作成日	平成25年1月7日	評価結果市町村受理日	平成25年4月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/11/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社ケアシステムズ
所在地	東京都千代田区一番町6-4-707
訪問調査日	平成25年1月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

毎年10月に近隣公園で開催している当ホームのバーベキュー大会は3年前より同会社のグループホームと合同で行い、大勢のご家族様の参加を頂きました。合同の家族会では活発な意見交換があり、親交を深めることが出来ました。日々の生活では、ベランダの有効活用にとプランターで四季折々の花を育て、夏にはエコの為、ゴーヤのグリーンカーテン作りに挑戦しています。収穫したゴーヤは皆でいただきます。また、体力維持に何通りかの散歩コースを設定し、ご利用者様の体力に合ったコースを散歩します。ゆっくりと地域の人たちと挨拶を交わしながら、散歩を楽しみます。偏りが無く散歩が出来るよう「散歩日程表」にお名前を記します。当ホームではご利用者様一人ひとりを尊重し、「その人の立場で考える」を実践しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

最寄りの駅からの徒歩10分程度の場所に位置し、街と緑の自然に囲まれた環境の良い場所にあるホームである。開設10年が経過しており、地域にも馴染みの存在となっている。利用者は個別具体的な介護計画に沿ってサービスを受けており、明るく家庭的な設えのホームで、自宅にいるような日々を過ごしている。地の利を活かし、散歩コースを歩いたり、ガーデニングを行うなど、自然に楽しみながら身体を動かしている。また食事作りなど家事の役割も生き生きとこなしており、無理なく心身の機能を維持・向上している姿を見ることができた。地域や家族とのつながりも大切にしており、イベントなどでしばしば交流を行っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義を職員会議等で話し合い、地域に根ざした生活ができる様、理念を作り実施している。連絡ノート、会議録に記録し、各自確認し押印する事で皆で理念を共有し、実践している。	事業所の理念は、玄関内やスタッフルームの見やすい場所に掲示されいつでも振り返りができるようにしている。職員会議では、利用者への理解とチームケアへの理解について確認しあい実践につなげている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩の際に近隣の人達と挨拶、会話をする事で、良い関係を深めていけるよう心掛けている。行事参加の呼びかけを行い、地域の一員として日常的に交流している。	近隣の教会から、クリスマス会や食事会、介護予防体操等の行事への招待があり、必ず参加している。事業所の納涼祭には地域のボランティアの参加も募り交流の機会を設けている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	玄関、スタッフルームに理念を掲示し、日々の実践の様子や支援内容を事業所便りにて、家族や地域の人々に向けて理解して頂くように活かしている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で取り上げられた検討項目について、その経過、内容について報告している。参加された方々からの意見、質問、要望を受け、サービスの向上に活かしている。	運営推進会議では、民生委員や家族が参加しテーマについて話し合い意見交換をしている。運営推進会議の後に家族会を開催することもある。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者にも地域運営推進会議に参加して頂き、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えている。職員、利用者、家族との交流を図り、協力関係を築くように取り組んでいる。	市内のグループホーム連絡会が発足され、2カ月に一度開催されている。地域に密着した施設運営についての情報交換を行っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	安全対策委員会や職員会議で身体拘束について話し合い、正しく理解したうえで身体拘束をしないケアを実践している。	事業所では身体拘束は行われていない。法人全体で安全対策委員会を設置し、拘束しないケアに努めている。本部で開催される研修に参加し、職員会議で報告を行い、職員全員への周知に努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月本社で開催している安全対策委員会で取り上げ、各事業所に意見を持ち帰り、理解浸透に向けて取り組んでいる。また、身体拘束廃止委員会を設置し、問題提起し職員会議で話し合っている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	講習や会議にて、学ぶ機会を持ち、個々の必要性を随時職員と話し合っている。説明、アドバイスを行いながら、利用者の支援を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約時に不安や疑問等について、十分な説明を行い御理解頂いている。契約の改正（経費の総額等）をする場合は、利用者、家族にその精算根拠を示し説明を行い、納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情窓口や意見箱の設置により、利用者、家族の意見を把握し、迅速に対応出来るようにしている。また、月1度介護相談員が訪問し、利用者の相談にのって頂いている。利用者の立場に立った意見を頂き、運営に反映させている。	運営推進会議の他に、年6回家族会を開催し、家族からの意見や要望を聞く機会を設けている。家族の訪問時にはなるべく会話の時間をもち、意見等は「家族対応ノート」に記載するしくみになっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃からコミュニケーションを計り、気軽に意見や提案が言い易い環境作りを心掛けている。職員会議で話し合いの場を作り反映させている。内容は会議録に記録し、確認したら押印する事で皆で把握している。	職員会議で意見交換を行う他にも、申し送りノートや連絡ノートなどにも気軽に意見や提案を記載できるようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の資格取得に向けた支援を会社でバックアップしている。資格取得後は本人の意向を重視し、やりがいや向上心を持って仕事ができるよう職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	本社での各研修に参加し、働きながら、常に学習できる機会を作り、トレーニングしていく事を進めている。それらの研修報告は、職員会議で報告し、会議録にて全職員が確認している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市の研修会、セミナーの参加の他、会社の他施設との交流をしており、サービスの質の向上に努めている。また、地域包括支援センター主催の勉強会に参加し、情報交換、交流を図っている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談で今までの生活状況を把握するように努めている。可能であれば家族と共に見学して頂き、本人が求めている事や不安を理解し受け止めていく中で信頼関係が築けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでの家族の苦労や不安、サービス状況の経緯について、ゆっくり聞くように心掛けている。話を聞くことで落ち着いて頂き、不安や要望等の相談にのる事でより良い関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	可能な限りその時必要としている支援を見極め、柔軟な対応を行っている。場合により地域包括支援センターや自社の他事業所のサービス(訪問介護、通所介護、ショートステイ、特定施設)につなげている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の思いや根本にある苦しみ、不安、喜びなどを知る事に努めている。共に過ごす中でその人の心に寄り添い、支え合う関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族の絆を大切にしながら職員、家族が共に相談し、本人を支えていく協力関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族を通して地域に暮らす馴染みの知人、友人等の自由な訪問や交流が途切れないよう配慮し、支援している。	友人や知人の訪問、馴染の理容師や、踊りの会のボランティアなどの訪問もあり、交流の機会を持ち人間関係の継続を大切にできるような環境整備に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個別に話を聞いたり、皆で楽しく過ごす時間や気の合う者同士で過ごせるよう配慮している。一人ひとりが孤立しないよう、職員が調整役になり、利用者同士が関わり合い、支え合える支援に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族の意向によって、利用中に培った親愛関係を基盤にし、必要に応じて継続的な関係を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で声かけし、言葉や表情から希望や意向を把握するように努めている。意思疎通が困難な方には、家族や関係者から情報を得るようにし、本人本位に検討している。	日中の見守りの中で一人ひとりの様子に気を配りながら、意向の把握に努め、利用者の希望に沿った個別の対応に力を入れている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前調査で得たこれまでのサービスの経過等の情報はもとより、本人との会話の中や、家族、知人の訪問時の会話等から少しずつ生活歴やライフスタイル、個性や価値観の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	小さな動作、変化に注目し、現状の全体把握に努めている。職員会議、フロア会議等で一人ひとりの生活リズムの理解、共有を深めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者が自分らしく暮らせるよう本人や家族の意向を聞き、職員会議やフロア会議でアセスメント、カンファレンス、モニタリングを行っている。職員全員で行い、情報交換をしケアプランを作成している。	利用者や家族から聞き取りを行い、職員全員で意見交換を行いながらケアプランの作成に至っている。介護計画と日々のケアにずれがないように注意しながら作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一時間ごとに様子を生活記録に記録している。状態の変化がある際は詳細に記録し、職員間での情報共有を徹底している。ケアプランを生活記録に反映させ、記録を基に実践やケアプランの見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	職員はいつでも利用者や家族の要望に応じられるよう心掛けている。散歩、外気浴、買い物等。また、併設のデイサービスのワゴン車を利用し、戸外のレクリエーション活動を行っている。急な通院介助等、柔軟な支援をしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	月一回介護相談員2名の訪問、年二回の避難訓練では、消防の協力を得ている。近隣の教会と一年を通して交流し、親交を深めている。ボランティアの受け入れも積極的に行い、安全で豊かな暮らしを楽しめるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームの連携医や利用者のかかりつけ医と協力、連携しながら適切な医療が受けられるよう関係を築きながら支援している。年に一回、検診車により健康診断を行い、全員の健康状態の把握に努めている。	月2回の訪問診療の他、訪問歯科、訪問看護の訪問により利用者の健康管理を実施している。服薬については、事業所のオリジナルマニュアルに沿って管理している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制加算訪問看護の看護師が週に一度訪問し、日頃の健康管理や医療面での相談、助言、対応を行っている。日々の関わりの中で得た変化や気づきを看護師に伝え連携を取り支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、本人への支援方法に関する情報を医療機関に提供し、出来る限り見舞うようにしている。また、家族とも面会時や、電話連絡で情報交換や相談し、速やかな退院支援に結び付くようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「重度化した場合の対応に向けた方針」を職員全員で内容を検討している。支援方法の統一を図り、共有しチームで支援に取り組んでいる。	入居前必ず重度化や終末期に向けた方針について説明を行っている。利用者と家族の意向を尊重し、医療との連携のもとチームでの支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを作成し、職員会議等で緊急時の対応について話し合い、速やかに応急処置ができるよう心がけ、実践力を身に付けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し、迅速に対応出来るようにしている。年二回消防署の協力を得てデイスサービスと合同で避難訓練を実施している。民生委員、設備会社担当者にも参加して頂き、協力体制を築いている。	防災訓練は年2回実施している。マニュアルを作成し、職員が落ち着いて適切な行動をとれるよう手順の確認を行っている。	事業所では、マニュアルを作成し防災についての周知に努めている。さらに近隣住民への防災訓練への参加の呼びかけや、協力体制についての取り組みに期待したい。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者への言葉かけや対応は尊敬の念を持って行うよう、職員全員に日頃から徹底させている。生活記録記入の際、共有空間で記入する事もあるが、記録の保管場所を定め、個人情報の取り扱いに注意している。	法人本部で行われる接遇研修に参加し、接遇に関する意識を高めている。一人ひとりの尊厳を守るため、排泄や入浴の声かけなど羞恥心については職員全員が常に気をつけている。	利用者の記録類の記入については、スタッフルーム内で行う等の工夫や利用者への配慮が必要と思われる。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意見、考え、希望を尊重し、実現できるような対応を心掛け、働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々のその人らしい暮らしが出来るよう、一人ひとりの体調に配慮しながら支援している。その日、その時の利用者の気持ちを尊重し、利用者のペースに合わせた生活を大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	二ヶ月に一度、カットボランティアによりホームで散髪を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事を一人ひとりのトレーに置き、個別性を大切にしている。食事中は音楽を流して雰囲気作りをしている。職員は利用者の隣に座り会話を楽しみながら食事をしている。テーブル拭きを手伝って頂いている。	毎日のテーブル拭きや食器拭きは、利用者の中で担当を決めるなど個別の支援が行われている。バーベキューやいも煮会、昼食会など、野外での食事をする機会を持ち、利用者の楽しみとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日、食事や水分の摂取状況を生活記録、チェック表に記録している。職員は情報を共有し摂取量の少ない時には体調を観察しながら、無理のないよう配慮しつつ促している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きの声かけや誘導を行い、能力に応じて職員が見守ったり、介助を行っている。就寝前は必要に応じて義歯をお預かりし、週三回の洗浄を行い、口腔内の清潔保持をしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、声かけ、誘導をする事でトイレでの排泄を促している。日中は出来る限り綿パンツ等を着用して頂き、自立に向けた支援を行っている。	排泄チェック表によって個別のパターンを把握し、定期的に声かけすることで日中は、できる限りトイレでの排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分飲水量に気をつけ、毎日のラジオ体操や散歩、軽い運動などの体を動かす機会を適度に設けている。自然排便できるよう、個々に応じた予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりの希望やタイミングに出来るだけ合わせ、入浴を楽しめるよう支援している。	身体状況や習慣に配慮し、利用者の希望に沿った入浴時間を決定している。希望により、同性介助にも取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中出来るだけ散歩や、レクリエーションへの参加を促し、夜間安眠出来るよう、生活のリズム作りをしている。また、一人ひとりの体調や表情、希望等を考慮し、ゆっくり休息がとれるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師の指導、服薬表で職員が把握、確認している。薬の処方や用量が変更になり、本人の状況変化が見られる時は、連絡ノートに詳細を記録し情報を共有している。ホームドクターとの連携にも努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	モップ掃除、洗濯物干し等の簡単な家事は利用者に役割を担って頂いている。書道や貼り絵、塗り絵など一人ひとりの力を発揮して頂き、楽しみながら気分転換を図れるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日に、利用者一人ひとりの希望により、職員と一緒に散歩へ出掛けている。	外気浴には積極的に取り組んでいる。お散歩マップを作成し、1周コース、畑までコースなど、利用者の希望に応じて毎日のコースを決定できるようにしている。花見などの外出も個別の対応に取り組んでいる。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族よりお金を預りホームで保管しているが、利用者の管理能力に合わせて自己管理されている。職員は本人がお金を持つことの大切さを理解している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や大切な人への電話は必要に応じて自由に掛けて頂いており、手紙も本人の要望に添って投函している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合った掲示物を展示している。照明などの調整、テレビの音、職員の会話のトーンに注意し、落ち着いた雰囲気与生活出来るよう配慮している。生活感や、季節感を採り入れて、居心地良く過ごせる工夫をしている。	玄関ホールにはベンチや緑台が置かれ、共用空間には、季節の飾りつけや行事の写真を飾るなど、利用者の気持ちを大切にしたい暖かい雰囲気が感じられる。春には花壇に植えた花を摘み、テーブルに飾るなど利用者の希望に沿った支援を行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関ホールや玄関にベンチや緑台を置き、利用者がゆっくりくつろげるスペースを作り、思い思いに過ごせる居場所作りを工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人と家族と相談しながら、慣れ親しんだ調度品、写真、趣味の物を置き、本人の居心地の良い環境になるように工夫している。	備え付けの家具以外にも、利用者の希望に応じて持ち込みが可能となっている。写真や趣味の品が飾られ利用者にとって過ごしやすい空間となっている。ベランダでのガーデニングも可能となっており職員が支援を行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロアにカレンダーをかけている。本日の予定(ドクター往診、口腔ケア、歯科往診等)をプレートにし、その都度表示している。トイレは文字と絵でひと目で分かるように表示し、迷わない工夫をしている。		

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	35	年2回の消防避難訓練の際チラシ配布やポスターを貼り出し、参加を呼びかけるが、参加協力を得る事ができない。施設への関心を持って頂き、災害時に協働態勢を築き、ご利用者様の安全を確保する。	グループホームの理解と災害時に地域住民の協力を得られる関係を作る。	第1の目標として、7月20日当施設の10周年イベントに地域の人たちが気軽に参加出来る様企画する。自治会長、民生委員、地域包括支援センター等近隣のネットワークを活用し、より多くの人たちに施設を知っていただく。町内の行事(夏祭り、消防避難訓練等)参加可能なことは進んで参加協力し、相互の協力体制を築き、災害時の支援協力を頂く。	6ヶ月
2	36	日中、ご利用者様と同じテーブルで、見守りをしつつ生活記録を記入しているため、個人のプライバシーについては、記入途中で席を立つ場合は、ご利用者の目に触れることのないよう別の場所に置いてプライバシーに配慮している。	個々のプライバシーに十分配慮し、ご利用者様の視線が届かない場所で生活記録を記入する。	認知症状が重く、常に見守りが必要なご利用者様の隣で他のご利用者様のプライバシーに配慮しながら生活記録を記入する。フロアー全体の見守りを行いながら、ご利用者様の視線に触れないようプライバシーに配慮して生活記録を記入する。	1ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月